

世界ウイグル会議

ウェブサイト: <http://www.uyghurcongress.org/jp/>



世界ウイグル会議とは、東トルキスタン民族運動を統一させるために世界各国にあるウイグル人組織によって結成された、国際社会で唯一合法の最高指導機関です。

総裁のラビア・カーディルは中国では有名なウイグル人実業家でしたが、弾圧されるウイグル人の人権改善を訴えたために1998年中国政府に逮捕され、アメリカ政府と人権団体の働きかけで2005年に釈放、アメリカに亡命しました。人権活動家として2006年以降ノーベル平和賞の受賞候補にノミネートされており、ウイグル人からは「ウイグルの母」と呼ばれています。

◆ウイグルで起きていること

2009年7月5日に起きたウルムチでの事件は、それに先立つ6月26日に広東省の玩具工場で起きたウイグル人襲撃事件の解決を願い、犯人を逮捕するよう要求する平和的なデモから始まりました。しかし現地政府は武装警察を投入し、無差別な発砲により数百人を射殺し、さらに数人を装甲車でひき殺すなど、激しい弾圧を行いました。

中国政府の公式発表では192人の死者となっていますが、実際には武装警察や漢人の報復行為によってウイグル人数千人が犠牲になったと推定されています。また、1万人を超えるウイグル人が逮捕されたとみられ、今でも多くの人が監獄に閉じ込められ、拷問を受け、死に至っています。

そもそも6月の事件で殺された広東省在住のウイグル人達は、経済的な理由による出稼ぎ労働者などではなく、中国政府が政策的に強制移送した人々です。

ウイグルの人々が直面しているのは、文字通りの民族浄化政策であり、その一環としてウイグル地域への漢人の大量移住が政策的に行われ、そして数十万人のウイグル人の若者が中国内地へと強制移送されているのです。

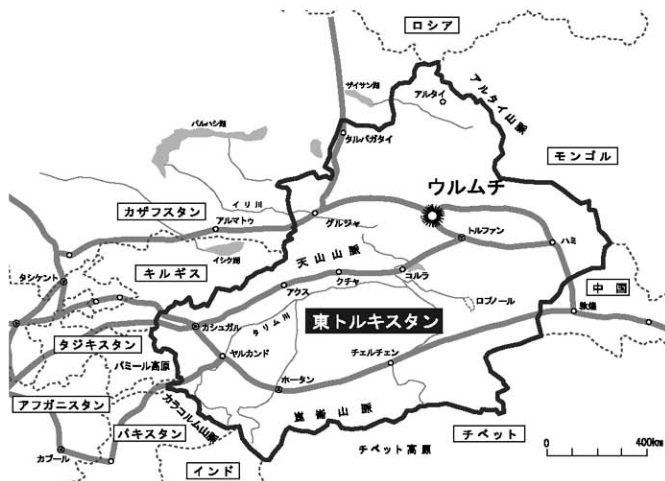
また民族の根幹を成す言語や文化、信仰などへの制限も益々強化されています。公教育からのウイグル語の追放、児童や学生の宗教活動への参加の禁止、伝統文化の破壊なども行われています。

公教育からのウイグル語の追放は大学から開始されましたが、年を追うごとに徐々に低年齢化し、現在では幼稚園から中国語教育が行われています。

地域住民の集まりなども政府の管理下に置かれており、宗教的・地域的つながりを失った若者たちはモラルを失い、さらにさまざまな抑圧や経済的な差別により、ドラッグに溺れてエイズに罹るなど深刻な社会問題を生んでいます。

また、「さまよえる湖」として有名なロプノールでは、住民が住んでいるすぐそばで核実験が何度も行われており、数十万人規模の放射能による犠牲者を出しています。

このような政府の残酷な政策に異議を唱える者は、「分離主義者」、「テロリスト」などとレッテルを貼られ、まともな手続きも経ずに監獄や強制労働所に送られています。



◆亡命後強制送還されるウイグル人

2009年の7月5日に起こったウルムチ事件後、22人のウイグル人が弾圧を恐れてカンボジアに亡命しました。

彼らはプノンペンの国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) で保護され、彼らの扱いは同事務所に任されているはずであり、第三国の受け入れ先を含め交渉しているところでした。ところがカンボジア政府は中国からの要求に応え、彼ら亡命者を中国のチャーター便で強制送還しました。

またウルムチ事件の逮捕者の拷問死をメディアに伝えたことが罪に問われたエルシデン・イスライル氏は、生命の危険を感じカザフスタンに亡命しました。そこでUNHCRの政治難民認定を受けましたが、カザフスタン政府は中国からの要求に応え、2011年5月に中国へ強制送還されました。

亡命後中国に強制送還された彼らは、ほぼ確実に投獄され、無期懲役や死刑が待っていると思われます。

国際法では、生命や自由が脅かされかねない人々を「追放したり送還されることを禁止する原則」があります。しかしカンボジア政府やカザフスタン政府は、中国からの経済的なものを含め様々な恩恵を受ける代わりとして、亡命者を強制送還したのです。

中華人民共和国が7月5日以降続けているウイグル人への不当な逮捕や処刑、そしてカンボジア王国やカザフスタンの国際的なルールを無視したこのような振る舞いに対し、断固として抗議致します。

◆もう一つの核被爆国

日本は最初の被曝国です。しかし唯一の被曝国ではありません。また最大の被曝国でもありません。

中国は、新疆ウイグル自治区 (東トルキスタン) の楼蘭付近で核実験を行い、周辺住民への甚大な健康被害と環境汚染とがもたらされています。

中国は1964年から1996年まで延べ46回、総爆発出力20メガトン (広島原爆の約1250発分) の核爆発実験を行いました。中国政府は核実験の被害状況を公表せず、また現地調査も許可しないため、どの程度の被害が出ているのかがなかなか分かりませんでした。1998年の7、8月にイギリスのテレビ局チャンネル4で、「Death on the Silk road」というドキュメンタリーが放送されました。潜入取材によって、ウイグルの核実験による被害を映像に収めたもので、大きな反響を呼びました。

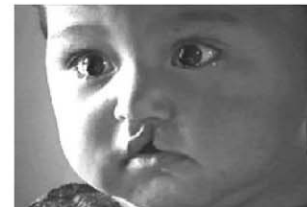
また2008年に札幌医科大学の高田純教授がカザフスタンのデータをもとに分析した結果、死傷者が100万人以上であると推論しました。

中国共産党の極秘資料によると75万人の死者が出たとも言われます。

核実験の中でも「地表核爆発」は、砂礫などの地表物質と混合した核分裂生成核種が大量の砂塵となって、周辺および風下へ降下するため、空中核爆発と比べて核災害の範囲が大きくなります。

このような危険な実験を、住民の安全を全く無視して、中国政府はウイグル人居住区で行ったのです。

日本ウイグル協会は「Death on the Silk road」の上映会を日本全国各地で行ない、ウイグルの核被爆災害の実態を広めています。



母親の胎内で被曝し、口唇口蓋裂で生まれた (Death on the Silkroadより)